

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1277500060		
法人名	有限会社 吾亦紅		
事業所名	グループホーム われも紅		
所在地	千葉県いすみ市日在1239		
自己評価作成日	平成22年3月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	2010/4/22		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症により自立が困難になられた方や、ご家庭での介護が困難になられた方を、温かい家庭的な雰囲気でお迎えし、自由な生活や生きがいを持って暮らしていけるよう、支援します。一人ひとりの尊厳を大切に、利用者の立場に立ったサービスの提供をいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「われも紅」は大原漁港にほど近い日在浦から500mほど内陸部に入った場所に位置している。民宿を改造した建屋は黒光りした柱が目につくが、廊下、居室、洗面所等全ての施設が清潔に保たれ、木造の暖かい環境を提供している。
 「われも紅」では、県内屈指の漁港にあがる新鮮な魚が食卓に上り、利用者を喜ばせている。また、県内外に知られている裸祭りが当所で行われ、「われも紅」の庭に神輿が入ってきて、これもまた利用者を楽しませている。
 このような環境下で管理者及び職員が一体となって「家庭的で親しみのある共同生活を送れるよう援助する」の理念を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いすみ市在住以外の人が多いが、地域の中でその人らしく暮らす支援をし、管理者・職員は理念を共有し、実践に向け取り組んでいる。	われも紅は「家庭的で親しみのある共同生活を送れるよう援助する」を理念としているが、これを実践すべく、日々管理者と職員が一体となってサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、近隣の方たちと気軽に挨拶をしたり、日常のお付き合いが出来るよう努めている。	「子供会」や「廃品回収」等で共に活動するなど地域の人たちと交流していることで、裸祭りのときには、われも紅の庭に200人位の人が入ってきて神輿を担いで見せてくれる。また、野菜や花、米などの提供もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況に応じ、地域の人々の暮らしに役立つよう、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現実的には、利用者の生活を安全にケアするのが精一杯で、行えていない。	運営推進会議のメンバーは、市の担当部署、家族、区長、住民、地域ネットの代表等であるが、われも紅の状況、サービスの実際等の報告に対し、夫々の立場で多様な意見があり、それらを運営やサービスの提供に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、常に相談や意見を頂き、サービスの向上に生かしている。	日々の問題等、困ったらすぐに市の介護福祉課に相談し、担当者の意見や協力を得ている。また、集団指導の機会などでも意見交換をし、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員の研修会への参加を進めるとともに、ミーティングの際やOJTにて「身体拘束をしないケアの実践」を全ての職員に徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学び、状態の変化等注意を払い、事業所内で虐待が見過ごされることが無いよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在5名の利用者が成年後見制度を利用しており、十分行えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	心配な時、体験入所をしていただく等、納得した上での契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、家族と連絡を取り合い、運営に反映させている。	利用者の要望を聴き取り、運営やサービスに反映している。また、出来るだけ、全ての家族に出向いてもらい、意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	24時間連絡が取れるようにし、意見を聞くようにしている。	ミーティングは職員の勤務の状況を見ながら行うようにし、職員の気付いたことやアイデアを聞きだすようにしている。また、ミーティングの際だけではなく、日常に、気付いたことや意見を出してもらい、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制、実績、給与、条件の整備等、十分行えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外部の研修の機会に参加し、資格取得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のデイサービスや第6ブロックの研修等、十分に交流し、取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用にいたるまで、本人の不安や求めていること等、本人自身からも良く聞く時間を作り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等、十分に話し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人と家族がその時必要としている支援を見極め、ニーズに応じ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら、職員が利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、一緒に本人を支えていく関係を築くよう連絡を取り合い、努めている。		
20		○本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出等、支援に努めている。	入居者の家族の状況により、毎日面会に来る家族、毎月1度来る家族、3ヶ月に1度来る家族等様ではないが、家族の絆を維持するように働きかけている。また、車で馴染みの場所を訪れたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようコミュニケーションをとり、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要に応じて、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。	利用者個々の個性、生活履歴、思いや思考など、生活に関わる意向を把握しているつもりだが、寄り添いの期間のほうが短く、努力を重ねている。こうした環境をしつらえ、利用者に精神的開放を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、こうけんにも、行政等から情報により努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活、体力、精神状態を含め、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。。	介護計画、モニタリングなどは、正確に実施されている。制度の根幹である計画が家族と共有され、事業所が信頼されていることが、利用者調査結果にもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、日々の申し送りにて情報を共有し、実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、ボランティア等の協力を得て、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力を得て、細やかな連絡を取り合い、支援している。	かかりつけ医との協力関係を大切にしている。元看護師の管理者により、日ごとの関りの中で捉えた情報等を伝え、的確な指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や状態の変化等相談し、医師への報告を含め、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る事、できないことを見極め、かかりつけ医と家族と共に支援に取り組んでいる。	元看護師の管理者による細やかな点検で家族は様子を把握できる。愛情を注いだケアと、安心して医療や介護を受けて頂ける環境を理想としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、普通救命の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の協力を得ると共に、避難訓練を行い、協力体制を築いている。	地域に密着しているホームとして近隣との協調性を大切にしている。ご近所の力が大きくホームを守っている、という。緊急の際の避難訓練も共同で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。	利用者の尊厳を守るのは『共同生活介護の鉄則』としている。	『利用者本人は、所長をお母さんと思っている』と利用者調査コメントにある。尊厳を守られ、ひたむきな信頼と安心が読み取れる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を表せるよう働きかけ、理解できる説明を行い、自分で決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しないよう勤め、その日どのようにしたいか希望を聞き、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、利用者と職員と一緒に食事をし、利用者の残存機能に合わせ、準備、片付けをしている。	利用者が地元の方が多いので、出来るだけ地物の味を大切にしている。昼食は、地元漁港に朝あがったアンコウを鍋に。認識できない方にもスプーンで勤めるスタッフの、温かい声かけが嬉しい。	『食事はほとんど手作りで充実している』と利用者調査のコメントにある。食事時の台所では、大中小の鍋が湯気を立てている。こうした作業への人的・物的費用が心配だが、維持して頂けることを、期待している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェック、偏食の利用者にはサプリメント等使い、栄養のバランスを確保し、個々に合った支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた支援を行い、排便、排尿チェック、時間にて誘導している。	民宿のものを改造した車椅子対応のトイレはいつもピカピカである。使い勝手が利用者安全で出来ている。 無理な支援はせず、利用者個々の状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い、食物繊維等を使い、個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度化しているため危険が多く、最低でも4名の職員がいなければ行えないため、職員の都合になっている。	食後の口腔ケア同様、入浴は念入りに行っている。 利用者は幸せそうに守られている。着替え室も浴室も清潔で空気の流れがよい。天候による衣類の湿気を気にして、大型乾燥機3台を配置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	このペースに応じて支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変換の観察を行い、服薬も状態に合わせて工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、散歩、ボランティアや他施設の交流で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得たり、近くの直売所へ行く等、支援している。	行動しづらい利用者には車椅子利用、車利用の馴染みの場所訪問、意思表示を促す声かけをするなど、外出を大切に考え、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の買い物があれば職員と行くが、重度化しているため、お金の管理は難しく、事業所で立替る方法を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りや花を飾ったり、季節感を感じる工夫をしている。	玄関や居間、食堂など、大きめの家の共用空間である。朝から夜までのケア、食べやすい食事の提供や声かけ、清潔を保つ介助など、利用者は安定し、表情もつつやと健康そうである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で安全に休んでいただいたり、トラブルが起きないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を踏まえて、本人に合った使いやすいように工夫している。	利用者ご本人とご家族でしつらえた空間である。窓からは長閑な田園風景と森が見える。『此处において利用者の皮膚病が治り、頭髪もずいぶん黒くなり…』と、家族による利用者調査コメントがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不都合な点があったら、その都度補い、安全な環境作りに努めている。		